



あっきーと行く

坂本龍馬 土佐編

～ゆかりの地からのメッセージ～

東京で、龍馬さんゆかりの地を訪ね歩いていた頃のことです。（※）

龍馬さんは度々、故郷である土佐の話をわたしに聞かせてくれました。

そのときの龍馬さんの笑顔が、これまたとびきり素敵なのです♪

「わたしも龍馬さんの故郷を訪ねてみたいなあ。」

いつしかそう思うようになりました。

ある日、MAPの製作でお世話になっているナカムラさんから、郵便物が届きました

。

それはJRグループの会員誌「ジパング倶楽部」（2010 5月号）でした。

「龍馬ゆかりの土佐をゆく」という特集記事に、「駅から観タクン」というタクシー観光プランが紹介されていました。

このプランを利用したら、わたしが行きたいマニアックな場所でも行けるかもしれません。

わたしは週末を利用して、一泊二日で取材に行けないものかと計画を立てました。

「よし、行こう！」

いよいよ江戸を飛び出し、ワクワクドキドキな初めての取材旅行がスタートしました

。

初回はなんと龍から大歓迎を受けてしまったのです。

ありがたくないことに豪雨・・・。

昼間なのに、山中にある和霊神社は悪天候のために真っ暗でした。

「写真が撮れないじゃーん！！」と龍に嘆くわたし・・・。

ところがこの旅で、わたしはとても親切なタクシーの運転手さんと知り合いました。

ザーザー降りの中、カメラを握り締めて、嬉しそうに山道を登っていくわたしに。

「大丈夫ですかあ〜？」

「写真撮りましょうか？」

いつも笑顔でご案内下さる、個人タクシードライバーの山本さんです。

始終、一緒に楽しんでくださいました。

結局、初回の取材旅行では、雨の影響で思うように写真が撮れなかった龍馬さんゆかりの地がいくつか残ってしまいました。

やはり、もう一度訪ねたいと思い、土佐訪問リベンジを決意！

今回も山本さんにお願いしました。

時期もあらかじめご相談して、春の少し暖かくなったところに決めました。

さて、出発当日の朝です。

天気予報をチェックすると、高知市内はなんと雨でした。

前回の、龍の大歓迎ぶりがわたしの頭をよぎります…。

羽田空港へ到着すると、視界が悪い場合は高知龍馬空港へ着陸できない可能性がある
とアナウンスが流れました。

ガン！

さっそく山本さんに電話でご報告です。



すると、高知市内は日差しが出てきて、これから雨があがりそうだと嬉しいお返事でした。

昨晚、「絶対に雨を降らせないでね！」と、ドラゴンにきつくお願いをしてきたかいがありました（笑）。

それでは、いざ出発です！

ガイドはもちろんこの方、坂本龍馬さん♪

「龍馬さん、どうぞよろしくお願いします。」

※参考

【あつきーと行く坂本龍馬～ゆかりの地からのメッセージ～】

<http://p.booklog.jp/book/5676>



- | | | |
|---------------------------------|------------------------------|-----------------------------|
| ① 武市半平太旧宅及び墓・瑞山神社
高知市仁井田3021 | ⑥ 居酒屋 しゅん
高知市追手筋1-3-29 | ⑪ 田中良助旧邸資料館・八畳岩
高知市柴巻381 |
| ② 武市半平太 道場跡
高知市桜井町1-2 | ⑦ 坂本龍馬 誕生地
高知市上町1丁目 | ⑫ 日曜市・ひろめ市場
高知市帯屋町2-3-1 |
| ③ 桂浜 坂本龍馬像
高知市浦戸 | ⑧ 和霊神社
高知市神田1540の南 | ⑬ 山内神社
高知市鷹匠町2-4-65 |
| ④ 後藤象二郎 誕生地
高知市与力町5-18 | ⑨ 坂本家墓所
高知市山手町70の東 | ⑭ 日根野道場跡
高知市上町2-13 |
| ⑤ 近藤長次郎邸跡
高知市上町2-8-20 | ⑩ 平井収二郎・加尾 誕生地
高知市山手町98の東 | |



- | | | | |
|---|---|---|---|
| ② 武市半平太 道場跡
高知市桜井町1-2
横堀公園内北東
「菜園場町」徒歩3分 | ⑤ 喫茶「さいたにや」
高知市上町3-7-4
「上町2丁目」徒歩1分 | ⑦ 龍馬郵便局
高知市上町1-8-18
「上町1丁目」徒歩3分 | ⑫ 日曜市・ひろめ市場
高知市帯屋町2-3-1
「大橋通」徒歩3分 |
| ④ 後藤象二郎 誕生地
高知市与力町5-18
「大橋通」徒歩5分 | ⑥ 居酒屋 しゅん
高知市追手筋1-3-29
センチュリービル1F
「蓮池町通」徒歩1分 | ⑨ 坂本家墓所
高知市山手町70の東
「旭町1丁目」徒歩8分 | ⑬ 山内神社
高知市鷹匠町2-4-65
「県庁前」徒歩5分 |
| ⑤ 近藤長次郎邸跡
高知市上町2-8-20
「上町2丁目」徒歩3分 | ⑦ 坂本龍馬 誕生地
高知市上町1丁目
上町病院付近
「上町1丁目」徒歩1分 | ⑩ 平井収二郎・加尾 誕生地
高知市山手町98の東
土讃線踏切付近
「旭町1丁目」徒歩10分 | ⑭ 日根野道場跡
高知市上町2-13
「上町2丁目」徒歩5分 |

機内では、高知の空が晴れ渡っていることをそっとイメージしていました。

龍にも、今回は高知から離れたところで見守ってくれるようにと、再度お願いをしました。

あっきー、かなりしつこいです（笑）。

すると、どうやら願いが通じたみたいです。

わたしたちは羽田空港へ引き返すことなく、無事に高知龍馬空港へと降り立ちました

。

「ああ～、よかった♪」

到着ロビーでは、山本さんが笑顔で迎えてくださいました。

高知龍馬空港を離れ、車で走行しているうちに、どんどん雲が流れていき、いつの間にか空は晴れ渡っていました。

さっそく、最初のゆかりの地に到着です。

訪れたのは、土佐勤王党（とさきんのうとう）の盟主であった武市瑞山（たけち ずいざん）、通称は半平太（はんぺいた）の旧宅と、すぐそばにある半平太を祀る瑞山神社（ずいざん）、そして半平太・富子夫妻の墓です。

県道には標識があり（画像1）、少し手前には数台分の駐車可能な広場もあります。
標識を目印に、県道から入る細い道を100メートルほど山の方へ進んでいくと、突き当りに案内板（画像2）が立っています。

案内板の左手にあるのが武市半平太旧宅です。

現在は個人宅だそうで、見学や立ち入りはできませんのでご注意ください。

失礼して、少し離れた場所から概観の写真だけを撮らせていただきました。（画像3）

次は案内板の右手、石段を上ったところに鳥居が見えます。（画像4）

ここが瑞山神社です。

そして、神社からさらに奥の石段を上ったところに、半平太・富子夫妻の墓があります。（画像5）



【画像1】 県道の標識



【画像 2】 案内板

国史蹟 武市半平太旧宅と墓

たけら はんぺい たきゅうたく はか

瑞山は文政12年(1829)生まれ。通称半平太、本名小楯、瑞山は号。幕末に土佐勤王党首領として活躍したが、文久3年(1863)8月の政変後、弾圧をうけて投獄され、慶応元年(1865)閏5月11日に切腹を命ぜられた。37歳の生涯であった。

旧宅は元藁葺き式平屋建ての典型的な郷土住宅で、間敷は6室、客室は8畳で柱に瑞山が文字を刻記した痕が

認められる。旧宅の右手には、瑞山神社が建てられており、境内に、

「花依清香愛 人以仁義栄 幽囚何可恥 只有赤心明」
花は清香に依って愛せられ、人は仁義を以って栄ゆ。

幽囚何ぞ恥づべき、只赤心の明かなるあり。

という彼の遺詠を刻記した記念碑がある。墓地は神社右手の小丘にある。

昭和11年9月3日に、国の史蹟に指定されています。



【画像 3】 武市半平太旧宅



【画像 4】 瑞山神社の鳥居



【画像5】 武市半平太・富子夫妻の墓

わたしは半平太・富子夫妻の墓前で手を合わせました。
顔を上げると、ご夫妻がニッコリと微笑んで、わたしを迎えてくださいました。
このときの半平太さんの服装は袴姿でした。
いかにも武士らしく、キリッとした佇まいです。
妻の富子さんは小柄で、地味な着物姿です。
印象的なのは半平太さんより少し後方で静かに控えていることです。
わたしたちの間を、気持ちよく風が吹き抜けていきました。

半平太さんはおもむろに筆をとると、半紙に墨絵を描き始めました。
見れば、木の枝先にはかわいらしい花が咲いています。
わたしにはそれが梅のように見えました。
今度は絵の横に文字を書き始めました。
漢詩でしょうか？

恥ずかしながら、わたしの知識ではなんと書いてあるのかさっぱりわかりません。
恐縮しながらお尋ねすると、いきなり半平太さんの衣装がチェンジするではないですか！

これはちょっと面白かったです（笑）。

あたりの景色は一変し、どうやらわたしは墓前ではなく、道場にいるようです。
目の前の半平太さんは、今度は道着姿になり正座をして、わたしに優しく説いてくれました。

まるでわたしの師匠であるかのようです。

半平太さん

「心に決めたことを曲げてはならないという意味だよ。」

「それが自分自身で決めた道だとするならばね。」

あっきー

「それならば、半平太さんはご自身の道を全うされたのでしょうか？」

今思えば、初対面の方に対して、いきなり図々しい質問をしていますね（苦笑）。

半平太さん

「悩まない人間などいないのだよ。」

「でも、そこで立ち止まってしまっては、その先は見えてこないだろう？」

「だから、自分が信じた道を貫いたことには、今でも後悔はしていない。」

富子さんは、ご主人である半平太さんが信じることを、妻である自分も信じて、どんなときも半平太さんを尊敬し、そっと見守っていたそうです。

半平太・富子夫妻を見ていると、わたしはほっこりとした気持ちになっていました。お二人が目を合わせるたびに、固い絆で結ばれていることが自然と伝わってくるからです。

しかも富子さん、癒しキャラなんですよね♪

わたしは武市半平太・富子夫妻の墓で、半平太さんから読者にむけてのチャネリング・メッセージを受け取りました。

まず、半紙に筆で「信念」と書きました。

自分を信じて、念ずること。

これはいつの時代においても、大切なことである。

どんな立場でも関係なく、大切なことである。

波乱の人生を歩んだ武市半平太さんからのメッセージに、わたしは胸が熱くなりました。

すると、誰かが隣でわたしに話しかけてきました。

「そして、さらに行動することだよ。」

なんとビックリ！、坂本龍馬さんです。

半平太さんのメッセージに龍馬さんが付け加えると、半平太さんはニヤリ。

それから二人で目と目を合わせ、笑顔で頷いていました。

あいかわらず茶目っ気たっぷりな龍馬さん♪

そうだ、土佐は龍馬さんが案内してくださるんだった！

「龍馬さん、今までどこにいたんですかあ～（笑）」

心地よい風に吹かれながら、武市半平太・富子夫妻の墓地がある丘から見渡す景色はなかなかいいですよ～。（画像6）

さあ、それでは来た道に戻りましょう。

次に向かったのは、瑞山記念館（画像7）の奥にあります、瑞山神社です。（画像8）

こちらは武市半平太さんを祀る神社です。

本殿で参拝をすると、すぐに白装束の男性の神様が現れました。（画像9）

ご祭神である武市瑞山さんです。

こちらでは半平太さんではなく、あえて瑞山さんと書かせていただきますね。

目の前の瑞山さんは強い輝きを放ち、微笑みながら、本殿を背に立っていました。

わたしは、瑞山さんのそばに来るように、さらに頭を少し下げると言われました。

嬉しいことに、まずはわたしの旅の安全を祈願してくださるのだそうです。

自然とこちらが最初の訪問地になった理由がわかりました。

導いてくださったようです。



【画像 6】 墓地からの景色



【画像7】瑞山記念館



【画像 8】 瑞山神社



【画像9】瑞山神社 本殿

わたしは瑞山神社でご祭神である武市瑞山さんから、参拝者、特に子供たちに向けてのチャネリング・メッセージを受け取りました。

子供たちへ

努力をすれば、必ず実ります。

さあ、その素直な心で、わたしに付いてきなさい。

わたしには、大勢の子供たちを、微笑みながら見守っている武市瑞山さんが見えます。

土佐の子供たちをサポートしているそうです。

なかでも、学業祈願は特によいと教えてくださいました。

日頃、夢に向かって努力をしている地元のお子さんたち、よかったら瑞山神社を訪ねてくださいね。

あっ、一応、保護者同伴をお願いします（笑）。

引き続き、わたしは武市半平太さんゆかりの地を訪ねてみることにしました。
向かったのは武市半平太道場跡です。

横堀公園の入口付近には（画像10）、「武市半平太邸跡及び道場跡」と記載された案内板と石碑が立っていました。（画像11）

案内板によると、実際に道場があった場所は、ここから約30メートル東の道路北側付近と推定されるそうです。（画像12）

わたしは公園の木陰に移動すると、ベンチに腰かけました。

すると、公園の入口から一人の武士が急ぎ足でこちらにやってきます。

道着姿で、右手には木刀を持ち、あふれる汗を手ぬぐいで拭いながら。

その呼吸の様子からも、おそらく道場で稽古を終えたばかりなのだとわかります。

現れたのは武市半平太さんです。

まず最初に、イメージが送られてきました。



【画像 1 0】 横堀公園の入口付近



【画像 1 1】「武市半平太郎跡及び道場跡」の案内板と石碑



【画像12】案内板

夜なのでしょう。

見渡すと、そこは真っ暗な道場です。

道場の中央にある掛け軸が、月明かりにうっすらと照らされています。

「シュツ、シュツ」

暗闇の中で、剣を振り下ろす音だけが静かに聞こえてきました。

徐々に見えてきたのは、一人の剣士らしき影です。

目を凝らすと、それは剣術修行をしている武市半平太さんでした。

半平太さんの正面には誰かいるのではないか？

そう思わせるほど、あたり一面に緊迫した空気が漂っていました。

それは武市半平太さんの一人夜間稽古の様子でした。

再び、わたしは横堀公園のベンチに座っています。

半平太さんが隣に腰かけました。

わたしは先ほどの一人夜間稽古について尋ねてみました。

半平太さんは、あれは相手の気を読むための稽古だと教えてくれました。

昼間の稽古では、つい目で相手の動きを追ってしまう。

ところが、夜間の稽古では思うように目が使えないため、相手の気を読むことに集中できる。

この稽古を積み重ねることで、自然と相手の動作を先に読み取れるようになるのだそうです。

なるほど～。

わたしは武市半平太道場跡で、武市半平太さんから読者に向けてのチャネリング・メッセージを受け取りました。

半平太さんは、木刀の先で、公園の土に何やら文字を書きました。

よく見ると『夢』と書いてあります。

筆で書いたように、きれいな字です。

そして、わたしの方を振り返り、ニツコリと微笑みました。

公園の入口から、一人の着物姿の女性が歩いてきます。

すぐに半平太さんの妻、富子さんだとわかりました。

お弟子さんたちがいない時間をわかっていらっしゃるようです。

目立たないように、そっとお弁当を届けにいらっしやいました。

それを、笑顔で受け取る半平太さん。

ご夫婦のやり取りをそばで見ているだけで、ポカポカと温かい気持ちになります。

やっぱりいいなあ～まさに癒やし系ご夫妻♪

今だったら、CMのオファーがたくさんきそうです（笑）。

☆武市半平太さんの印象

ここで、皆さんにご紹介したい、わたしが受け取ったもう一つのイメージがあります

。

着物姿の半平太さんが、縁側でしみじみと庭を眺めています。

外は明るく、昼間のようです。

半平太さんは、何をしているのでしょうか？

実は風のにおいから季節の移り変わりを感じたり、庭先の花々の美しさに日々の喜びを感じたりしているのだそうです。

そのような繊細な感性を持つ人柄と、夜間、一人剣を振り下ろす厳しい姿とが、同じ人物であるとは驚くほどです。



坂本龍馬像と言えば、やはり有名なのは桂浜の龍馬像ですよ。

高知を代表する観光スポットです。（画像13）

いろいろな龍馬像と記念撮影をしてきましたが（笑）、桂浜の龍馬さんはスケールが違います。

そして、わたしの故郷、長崎にある風頭公園の龍馬像はご存知でしょうか？

長崎の龍馬像もぜひご紹介したいです♪

実は東京にも龍馬像がありますよ。※

よろしければ、そちらも覗いてみてくださいね。

ちょっとユニークな龍馬像です。

※【あっきーと行く坂本龍馬～ゆかりの地からのメッセージ～】

<http://p.booklog.jp/book/5676>

「ひと休みスポット～立会川駅プチ写真集～」



【画像 1 3】 桂浜



さて、今回ご紹介するのは、桂浜にある坂本龍馬像です。

わたしは2回訪ねましたが、いずれもお天気に恵まれたラッキーポイントでした。
初めて桂浜で龍馬像と記念撮影をしたときの、われながら嬉しそうな顔ったら！

そのときは、雨上がりに一気に晴れたので、桂浜はものすごく蒸し暑かったです。
流れる汗を拭いながら、フラフラ浜辺を歩いていると、目の前にアイスクリン屋さんの看板を発見しました！（画像14）

「わあ〜い♪」

見てください、おいしそうでしょ？（画像15）

2回目は嬉しいサプライズがありました♪

龍馬像のところに到着すると、なんと、龍馬像の隣に特設展望台が設置されていました。（画像16）





【画像14】アイスクリン屋さん



【画像 1 5】



【画像16】特設展望台「龍馬に大接近」



この特設展望台、龍馬さんの誕生月である11月前後に設置されるのは知っていましたが、わたしが訪ねたのは4月下旬だったのでビックリしました。

しかもラッキーなことに、わたしが訪問した日がイベントスタートでした。

まだ観光客がまばらな時間帯だったので、写真をたくさん撮りました♪



このやぐらは13mの高さで、龍馬さんの横顔を見ることができます。

なかなかない機会ですので、では。
じーっと、じーっと見つめます。
まさに「龍馬に大接近」でした♪



桂浜を後にし、後藤象二郎（ごとうしょうじろう）さんの誕生地を訪ねました。

聖泉幼稚園の門前に石碑が建っています。（画像17）

ここは交通量が多い道路に面しており、人の行き来も途切れないため、ゆっくり過ごすことはできません。

わたしは幼稚園の前でずっと立ち止まっているのもどうかと思い、集中して、手短かにメッセージを受け取ることにしました。

いかにも気が強そうな、いわゆるキツイ感じの武士が現れました。

年齢は30歳前後といったところでしょうか？

歩き方がとても特徴的です。

足の運び方が豪快で、大きく外側から内側へと。

どこかで見たような・・・と考えていたら思い出しました。

まるで歌舞伎に出てくる男役（それもちょっと悪いほうの、ごめんなさい）みたいです（笑）。

しかも、初めからムツとした表情で、わたしの目の前に立っています。

なんとなく先行きが不安なスタートでした。



【画像 1 7】「後藤象二郎先生誕生之地」

後藤象二郎 (1838-1897)

天保9年3月19日この地に誕生 義叔父
執政吉田東洋に学び 藩政に抜擢される 第
15代藩主山内豊信(容堂)の信任を受け
公武合体論を唱え土佐勤王党と対立 武市瑞
山らを断獄する のち坂本龍馬と接し 容堂
公にすすめて 大政奉還の大業を成す

明治維新後は竹馬の友板垣退助と共に自由
民権運動を推進 在野勢力の大同団結に指導
者の光芒を放つ 伯爵

ここでの時間は限られています。

ええ〜い。

初めから直球で質問させていただきました。

あっきー

「龍馬さんについて、どう思われますか？」

すると、意外にも笑いながら。

後藤象二郎

「あいつは好かん。」

この会話で、なんとなく『大丈夫』と思ったわたし（笑）。

象二郎さんの話によると、長崎で会ったときの龍馬さんの印象しかないそうです。

そこでの龍馬さんは、眼光鋭く、とてもしたたかだったそうです。

当時の二人はビジネスパートナーに近い関係だったようで、象二郎さんは、そんな龍馬さんを認めていたと話してくれました。

わたしは後藤象二郎誕生地で、後藤象二郎さんから読者に向けてのチャネリング・メッセージを受け取りました。

少々、きつい言い方ですが、そのままご紹介させていただきます。

一番嫌いなのは、グダグダ文句ばかり並べて、何もやらない奴だな。
もっと嫌なのは、自分は何もしていないくせに、他人がやったことを、「だからダメなんだ」などと後からわかったようなことを言う奴だ。

人は苦しみながら、傷つきながら、それでも恐れず生きていくのだ。
負けてなどいられないのだ。

☆後藤象二郎さんの印象

恵まれた環境に生まれ育ったお坊ちゃん、そんな印象は全くありませんでした。
むしろハングリー精神を持つ、野心家という印象を受けました。

不思議なことに、ちょっとキツめな、はっきりとした物言いにも、実際に接していると少しも嫌な印象は受けません。

それは決して強だけの人ではないことを、どこかで感じさせるからかもしれません。

自分の弱さを知っている分、倍のエネルギーで自分を奮い立たせて立ち向かってきた。

そんな、強さと弱さもひっくるめて、とても人間らしい人だと感じました。

後藤象二郎誕生地の次に向かったのは、近藤長次郎（こんどうちょうじろう）邸跡です。

午後からスタートした土佐訪問リベンジの旅ですが、ここが1日目の最終目的地となります。

さあ、夕食の「カツオの塩タタキ」まで、あともう少し♪
がんばるぞ～！

近藤長次郎邸跡には石碑が建っています。（画像18）

ところが、ちょうど電柱の影になっているため、見つけるのに少し手間取りました。後で気づきましたが、ちょっと視線を上げると看板がありました。（画像19）
こちらを目印にしていれば探しやすいと思います。

石碑を見つけて一安心していると、向こうから着物姿の青年が歩いてきました。とても真剣な表情で、風呂敷包みを抱えて、急ぎ足です。すぐに近藤長次郎さんだとわかりました。

【画像 1 8】近藤長次郎邸跡

近藤長次郎 (1838-1866)

こんとんちやうじちろう

天保9年 大里屋伝次の長男に生まる
長じて坂本龍馬に兄事し活躍 神戸海軍
操練所をへて長崎 亀山社中に投じ エ
ニオン号譲渡をめくって薩長連合に一役
をになうも そのあと単独に海外渡航を
企てたことが社規に反し 慶応2年早春
自刃して果てた 行年29才



近藤長次郎印跡

bono r'enne
43 980 778



7-10



【画像 1 9】看板

実はわたしが長次郎さんに会うのは2回目です。

長次郎さんのお墓は土佐ではなく、わたしの故郷である長崎、皓台寺（こうたいじ）にあります。

以前、わたしはそちらを訪ねました。

いつか皆さんにご紹介できるといいですね。

さて、目の前の長次郎さん、そんなに急いでいったいどこへ向かっているのでしょうか？

どうやら、これから河田小龍(かわだしょうりょう)さんのところへ勉強に行くそうです。

すると、イメージが送られてきました。

静かな夜です。

わたしはお屋敷の庭に立っていました。

とある部屋に灯かりがともっています。

中には、机に向かって、ひたすら書物を読みふけている近藤長次郎さんがいました。

目をらんらんとさせ、とても集中しているのがわかります。

そういえば勝海舟さんも同じように、本に向かっているときは周りを一切気にしていませんでした。

わたしは近藤長次郎邸跡で、近藤長次郎さんから読者に向けてのチャネリング・メッセージを受け取りました。

わたしの家は商売をやっています。

周りからは『饅頭屋長次郎』と呼ばれていました。

実は、わたしはその呼び名が好きではありませんでした。

「わたしの個性とは何だろう。」

いつも考えていました。

長次郎はこういう人物であると、周りに認めてもらいたかったのです。

わたしは子供の頃から学問に興味がありました。

商売の手伝いの合間を見つけては、ひたすらに本を読みました。

学問だったら負けない、という強い思いが少しずつ芽生えていました。

学問はわたしに知識を与えてくれるだけではなく、人との縁も与えてくれました。

尊敬する先生方が、わたしの可能性を引き出してくれました。

そして、わたしは自分の強みを生かすことで、それが個性になるのだとわかりました。

☆近藤長次郎さんの印象

土佐で会った長次郎さんは、まさに苦悩する若者といった印象でした。

そこから出よう、出ようともがいていました。

長次郎さんの閉塞感と焦りは十分に伝わってくるのですが、メッセージとしてはなかなか届きません。

わたしは文章化するのに、少々苦労いたしました（笑）。

時代に関係なく、自分の生き方を見つけるのは苦しいことだと、長次郎さんから現代の若い人へのメッセージなのかなあ～と思いました。



☆「才谷屋」（さいたにや）

近藤長次郎邸跡のすぐ近くにある、坂本家の本家、才谷屋跡です。



坂本龍馬の名家

豪商

才谷屋跡

坂本龍馬の名家である才谷屋は、

坂本家四代(当時は大浜姓)八兵衛守之が

寛文六年(一六六六)に長岡郡種田郷才谷村(現南国市)

より高知城下本丁筋三丁目(現上町三丁目)に

移住し、妻佐耶と二人で僧家で質屋を、

始めたのが始まりで、屋号は出身地の名より

才谷屋とした。

後に酒造業、諸物品売買にも手をひろげ、

才谷屋の基礎を作った。

二代正徳は本丁筋年寄役を命ぜられ、

三代直益のころに才谷屋は、

城下屈指の豪商となり、次男直清に才谷屋を継がせ、

長男直海を明和七年(一七七〇)に

本丁筋一丁目(現上町一丁目)に郷士株を

取得し分家させ、郷士坂本家の祖とした。

郷士坂本家はその後八藏直造、

八平直足(養子)、権平直方と続き、

坂本龍馬直柔は

天保六年(一八三五)

十一月十五日

権平直方の弟として誕生したのである。

コーヒークラス
さいたにや

コーヒークラス、「さいたにや」の壁には案内板があります。



いよいよお楽しみの時間がやってきました♪

食べたかったよお～、カツオの塩タタキ。

さっそく予約していた【居酒屋 しゅん】さんへ向かいます。

こちらは初めて高知へ来た際に立ち寄ったお店です。

そのときも女性一人の客はわたしだけでした（笑）。

2度目に伺ったときは、前回、わたしがトレッキングシューズだったことが印象に残っていたようで、嬉しいことにお店の方が覚えていてくださいました。

カウンター席に座っていると、さりげなく店員さんがお料理やお酒について話し相手になってくださいます。

どうぞ「おひとりさま」でも安心してお出かけください（笑）。

いろいろな高知名物をいただくことができますよ♪



それでは、しゅんさんでいただいた、美味しい土佐名物のお料理をご紹介します♪
※お店の方に許可をいただいていたの撮影&掲載です。



【カツオ塩タタキ】

わたし、こちらの鰹の塩タタキが大好きなんです。

醤油ダレやポン酢ではなく、モンゴル岩塩とたっぷりの薬味でいただきます。

にんにくスライスは翌朝臭いますが（笑）、おいしいので、思い切ってたっぷりのせてみてください。



【ちちこのうま煮】

「ちちこ」とは鰹の心臓のことだそうです。

数がたくさん取れないので、貴重な珍味とご紹介いただきました。

わたしは高知の栗焼酎【ダバダ火振り(ひぶり)】と、ちちこのうま煮さえあれば、エンドレスな予感すらします（笑）。

お酒好きな方は危険ですよ～♪



【うつぼたたき】

お店の方に、

「これを食べないと後悔するお料理ってありますか？」

食いしん坊らしく質問してみたところ、大プッシュされたのが「うつぼのたたき」でした。

あっさりとしたコシがある身と、この皮がまた美味しいのです。

あの、うつぼのいかつい顔からは想像できない、とても上品なお味♪

その他の名物も、少しだけですがご紹介します。



【四万十川の青さのり天ぷら】



【高知産トマト】



高知の栗焼酎【ダバダ火振り(ひぶり)】をわたしにすすめてくださったのは、ドライバー山本さんです♪

なんと、しゅんさんの帰りに偶然入った酒屋さんでゲットしました！

しかも、品切れしていて、お店に入荷したばかりだったそうです。

わたしへのお土産になりました（笑）。

二日目の朝です。

ありがたいことに、本日もお天気に恵まれました。

宿泊したホテルから歩いてすぐのところに、坂本龍馬誕生地があります。

実は、朝から龍馬さんがずっとそばにいます（笑）。

「もしかして、龍馬さんが迎えに来ちゃった!？」

わたしは急いで身支度を済ませると、山本さんとの待ち合わせ時間まで、龍馬さんと一緒に坂本龍馬誕生地を訪ねてみることにしました。

坂本龍馬誕生地には石碑が建てられています。（画像20）

「土佐維新歴史文化道・坂本龍馬誕生地」と書かれた大きな標識があるので、車道からも見つけやすいです。（画像21）

また、石碑前には案内板とベンチが設置されています。

わたしは龍馬さんと並んでベンチに座り、ここでのエピソードを尋ねました。



【画像 2 0】坂本龍馬先生誕生地の碑

勝岡慎太郎

記念

坂本龍馬 (1835—1867)

さかもと りゅうま

郷土坂本八平の次男 実名直柔 天保6年11月15日出生 江戸に出
て千葉定吉に師事 北辰一刀流の目録を受ける 時勢に感じ武市瑞山
の土佐勤王党に加盟 文久2年3月24日脱藩 勝海舟門下生となり
神戸海軍塾の塾頭を務める その他長崎に海援隊を組織し中岡慎太
郎とともに薩長連合を実現 後藤象二郎と協力し大政奉還運動を推進
し目的を達する 彼の政治改革案「船中八策」は新日本の行く手を示
す基案となった 慶應3年11月15日京都の宿舎近江屋で反対勢力の襲
撃にあい同志中岡慎太郎とともに斬られる 33才





【画像 2 1】 「土佐維新歴史文化道・坂本龍馬誕生地」の標識

龍馬さん

「坂本家は明るい家だったよ。
父上はとてもしつけが厳しかった。
子供の頃は、よく父上の部屋に呼ばれてはお説教されたなあ～。
乙女(おとめ)姉さんには、いつも追いかけて。
逃げてもすぐに捕まえられて（笑）、これまたよく叱られていたなあ～。」

どうやら龍馬さん、家ではいたずらっこだったようですね。
すると、ふっと女性の姿が浮かんできました。
ピンときたわたしは、龍馬さんのお母さま、坂本幸（さかもとこう）さんについて尋ねてみました。

龍馬さん

「母上については、一言では難しいな。」

そのときです。

わたしの胸がキューっと苦しくなり、切ない感情がじわじわとわきあがってきました

。

まるで、龍馬さんの気持ちが伝わってきたかのようです。

龍馬さん

「出かける前には、必ず母上にそっと会いに行ったよ。

初めのころは通うのがおっくうで。

部屋を出るときに背中を向けると、母上は何も言わないで、背中をさすってはポンと押してくれた。

それが嬉しくてな。」

あっきー

「龍馬さんにとって、故郷とは何でしょう？」

龍馬

「土佐はわしのここ。」

そう言って、龍馬さんは臍のあたりを指差してニッコリと笑いました。

坂本龍馬誕生地にいる間、わたしには同時に川のイメージが見えていました。

実際には、そこから川は見えないのですが、歩いて5分ほどのところに鏡川（かがみがわ）が流れています。

後の章で、鏡川沿いにある日根野道場跡（ひねのどうじょう）をご紹介します。

☆あつきーからのワンポイント

坂本龍馬誕生地に立つと、何となくウキウキと楽しい気分になります。

それは、坂本家の明るい様子が伝わってくるからです。

龍馬さんは、ここを多くの方が訪ねてくれて、笑顔で過ごしていることが嬉しいと話していました。



【龍馬郵便局】

坂本龍馬誕生地の近くにあります。

なんと龍馬像がここにも♪



ご覧下さい、さらにポストの上にも龍馬さん♪
残念ながらわたしが訪ねたのは日曜日だったので、郵便局はお休みでした。
記念切手を買えなくてちょっと残念でした。

山本さんと合流し、車で最初に向かったのは和霊神社（われい）です。（画像22）冒頭でもお話ししましたが、ここが再び土佐を訪問することになった、きっかけの場所です。

前は土砂降りの中、無我夢中で石段を駆け上がりました。

ああ、懐かしい（笑）。

今回はスッキリと晴れて、ほんとうによかったです♪

神社参拝が大好きなあっきーとしては、和霊神社はこの旅で一二を争うワクワクポイントでもあります。

難点は、こちらを訪ねるには交通の便があまりよくないことです。

やはり、一番便利なのはタクシーだと思います。

入口付近には3台ほど車を駐車する無料スペースがあります。

鳥居の手前には和霊神社を紹介する石碑があり、（画像23）

さらに石段を少し上がると、右手には、神田龍馬会による案内板が立っています。（画像24）



和霊神社

祭神 宇和島伊達藩家老 山家清兵衛公頼
幕末の志士坂本龍馬4代前の先祖坂本八郎兵衛直登の
宣暦十二年宇和島の和霊神社を坂本家の屋敷神として勧請
文久二年龍馬脱藩の際水井で武運長久を祈願したと伝わる
昭和六十年から季植を顕彰した龍馬脱藩祭を行ってきた

和霊神社

【画像22】和霊神社



和霊神社

祭神 宇和島伊達藩家老 山家清兵衛公頼

幕末の志士坂本龍馬4代前の先祖坂本八郎兵衛直益が
宝暦十二年宇和島の和霊神社を坂本家の屋敷神として勧請
文久二年龍馬脱藩の際水杯で武運長久を祈願したと伝わる
昭和六十年から事績を顕彰した龍馬脱藩祭を行って

【画像23】



龍馬ゆかりの地



坂本龍馬飛騰の地

文久二年（八六）三月二十四日龍馬はこの地より運命の旅立ちをした。脱藩という、罪が係累にまで及ぶ恐れのある大罪を犯してまで龍馬を駆け立てたものは何だったのか。

乙女姉さんから与えられたと伝えられる銃刀、肥前忠廣を襲に、たとえ野末でのたれ死のうとも信念を貫き通す覚悟で、この祖霊の地に立った。

ただここでさえ江戸時代の旅立ちは死の覚悟が必要だった。ましてや時代に回天の大技を仕掛けようという龍

馬にとつて、自分の生き死になどは運命の本流に放りなげて平気だった。

おりから養生の極が七分咲きの、坂本家所領の小高い水谷山を黙然と登る龍馬の背にはひょうたんがあった。

丘の上の祠には坂本家の先祖である明智左馬助の霊と、伊子宇和島城下に本社のある、われい明神を合わせ奉つてある。

祠の中で祖霊と心ゆくまで語り、酒を呑んだ龍馬はまさにこの地で飛龍となった。

神田龍馬会



【画像 2 4】 神田龍馬会による案内板

鳥居から和霊神社へと続く急な石段は注意が必要です。

年月を物語るように、石の表面は丸みをおびて滑りやすく、配列もバラバラで上りにくいです。

また、手すりがないため、足腰が不自由な方には難しいと思われます。

女性は、ヒールやサンダルだと危ないので気をつけてくださいね。

わたしが言うのも何ですが（笑）、前はトレッキングシューズだったので土砂降りでも大丈夫でしたが、雨の日は滑りますのでおすすめしません。

さて、石段を上りました。

上から眺めると、けっこう急でしょう？（画像25）

鳥居があり、その手前には「坂本龍馬先生脱藩祭記念」と記した石碑が立っています。（画像26）

前回は大雨で、昼間なのに社殿は真っ暗でした。

今回は新緑もまばゆく、明るい中での参拝となりました。（画像27）



【画像 2 5】



【画像 2 6】 「坂本龍馬先生脱藩祭記念」の石碑



【画像 2 7】

「あれ？」

誰か来たのかと思い振り返ると、一人のお侍さんが石段を駆け上がってきます。

ものすごいスピード！

あはっ、坂本龍馬さんです♪

まるで龍馬さんが脱藩する前に、和霊神社へ参拝に来たときのようです。

ここからは、龍馬さんと一緒に参拝です（笑）。

見上げると、社殿の上を2頭の大きな龍が旋回しているのが見えました。(画像28)

あっきー

「はて。」

「前回、盛大に雨を降らせて歓迎してくれたのは、どちらの龍神さんかしら？（笑）」



【画像 28】



参拝を済ませると、社殿の中央に、胡坐をかいた一人の男性が現れました。（画像29）

長い髪を下ろして、髭をたくわえ、服装は白装束です。

年齢は40～50歳代でしょうか？

右手に何か細長い棒のようなものを持っています。

わたしはてっきり御祭神である山家清兵衛（やんべせいべえ）さんだと思いましたが、お尋ねしたら、自分は坂本家の祖先にあたるものだと答えてくれました。

すると、イメージが送られてきました。

先ほどの、わたしが石段を上ってくる映像です。

わたしはニコニコと、とても嬉しそうにしています。



【画像 2 9】 社殿

坂本家の祖先

「あなたがそうやって上ってくるのを、わたしはここで待っていたのだよ。何事も、楽しんで一生懸命に取り組むことは良いことだ。」

そのメッセージで、わたしはますます嬉しくなりました。

社殿の入口付近に座っている龍馬さんが、その様子を笑顔で見っていました。

わたしは和霊神社で坂本龍馬さんから、参拝者に向けてのチャネリング・メッセージを受け取りました。

かつて、土佐藩を脱藩する前に、わしがここを訪ねたときの話だが。

すでに、わしの決心は変わらんかった。

自分と向き合うために、一人ここを訪ねた。

そして、先祖に向かってわしは宣言をした。

それから、土佐に残る家族の安全を祈願した。

嬉しいことに、わしを慕う大勢の人々が毎年ここを訪ねてくれる。
わし、龍馬に心を動かされた人々に伝えたいことがある。
皆、それぞれが（人生の）「絵図」を描かないといかん。
ここには、一人一人、自分の心に決めた目標を宣言しに来るがよい。
次は、その報告に来てくれることを楽しみにしている。
そして、またここを離れるときには、わしが皆の背中を押してやろうじゃないか。

さっそくわたしも、和霊神社で自分の目標を宣言しました。
そして、応援してくださいとちゃっかりお願いをしてきました（笑）。

和霊神社を後にしようとしたとき、突然、龍馬さんからイメージが送られてきました

。



それは、道なき山道をかきわけて、かなりのスピードで走り抜けていく龍馬さんの映像です。

そう、脱藩の道です。

わたしは苦笑しながら、

「今回の一泊二日では、とてもじゃないけど寄れませんよお～。」

と龍馬さんに訴えました。

すると龍馬さんはニンマリしながら

「旅は大変だから。」

と伝えてきました。

むむむ、もしや脱藩の道をいつかは訪ねることになるのだろうか……。

うわあ～どうする?! あっきー。

和霊神社をあとにして、向かった先は坂本家墓所（さかもとけぼしよ）です。

坂本家の墓所は山手町の通称、丹中山（たんちやま）にあります。

現在は史跡公園として整備されていて（画像30）、途中の案内板もわかりやすく（画像31）、以前に比べるとずいぶん訪ねやすくなったそうです。

近くには駐車場があり、このうち坂本家墓所に指定されているのは2台分です。

前回は雨降りの中、傘をさしながらの参拝となりました。

このときは龍馬さんの姉である、坂本乙女（さかもとおとめ）さんとお話をしました

。

今回は快晴です♪

さあ、どなたとお話ができるのでしょうか。

わたしはわくわくしながら、坂本家墓所へと向かいました。



【画像 3 0】 坂本家墓所

坂本家墓所

総合案内板

坂本家墓所のあるところ丹中山(酒折)は、近接する小浪敷・井口・上町に住居する下級武士をはじめとする墓地山として、長い歴史を重ねてきました。そのため、この周辺には江戸時代の治世・武術・医術・文芸などにすぐれた人物や幕末勤王士・戊辰戦争従軍兵士、その家族の墓が集中し、坂本家もそのうちの一家です。

この地(丹中山と小浪坂山)が整備されることとなり、先人の遺業をしのぶため、ここに坂本家墓所並びに坂本家の人たちと同時代を生きた人物の墓の一部を整備保存することとしました。

なお、この周辺には多くの歴史的名墓が散在していますので、下記により概要をご案内します。

平成20年3月
高知市教育委員会

丹中山周辺案内図

- ①～⑮は現在地より約100m以内の墓所を示す。
- ①の墓所は、坂本家のお墓跡を物案で示したものであり、正確な方向等は、実際と多少異なる場合があります。
- ⑮から⑮までは順に移動してください。



- ① 坂上新雨墓 坂本 政太郎・安永墓
- ② 田口文良墓
- ③ 平井成二郎墓
- ④ 平井成二郎 加平屋土地
- ⑤ 坪川孝冠墓
- ⑥ 松木林経福土地
- ⑦ 赤松地兵衛・横三郎記念墓
- ⑧ 田沼正幸墓
- ⑨ 長越千鶴墓
- ⑩ 石山所六墓
- ⑪ 藤田早太郎墓
- ⑫ 横村清墓
- ⑬ 廣井誠之助墓
- ⑭ 私家坂本拾遺墓
- ⑮ 社内蔵太兵衛墓
- 小浪坂三郎墓
- 古野美次郎墓
- 山川幾太郎墓
- 才谷屋(大洞)歴代墓所

【画像 3 1】 坂本家墓所総合案内板

坂本家墓所に龍馬さんの墓はありません。

こちらには龍馬さんの両親、兄、姉ら、21人が眠っています。（画像32）

ちなみに龍馬さんの墓は、京都霊山護国神社（きょうとりょうぜんごこく）が管理する霊山墓地（りょうぜんぼち）にあります。

わたしは坂本家墓所の前に立ち、手を合わせました。

まず最初に現れたのは坂本乙女さんでした。

二度目なので、すぐにわかりました。

着物の袖をたすきがけした格好で、わたしの目の前にどっしりと佇んでいます。

わたしは乙女さんに、坂本龍馬さんにまつわる思い出深いエピソードがあれば聞かせてくださいとお願いをしました。

それは、母上である、幸さんが亡くなったときのお話でした。



【画像 3 2】 坂本家墓所

乙女さんは母上の死をととても悲しみました。

ところが、そばにいる龍馬さんは悲しみを通り越し、泣けないほどにショックを受けていたそうです。

乙女さんは隣でただ呆然としている弟を見てハッとしました。

その日以来、これからは姉である自分がしっかりしないといけないと覚悟を決めたのでした。

そして、龍馬さんがますます気弱になり、心を閉ざししてしまうのではないかと心配したそうです。

乙女さんは、龍馬さんが家に閉じこもることがないように、積極的に外へ連れ出し、いろんな体験をさせます。

わたしは坂本家墓所で、坂本乙女さんからチャネリング・メッセージを受け取りました。

「できなかったことが、できるようになる。」

その経験はとても大切です。

人はそうやって自信をつけていくものだからです。

龍馬に泳ぎを教えたのは、単に溺れないようにするためではありませんよ（笑）。

溺れそうになりながらも、必死で手足を動かすでしょう？

必死であればあるほど、自分自身を解放させることにつながるから、その突破口を見つけてあげることが目的でした。

自分の力で、これまでの自分から変われるのだと気づいて欲しかったのです。

こうして泳げるようになったことで、弟は自信を得て、さらに強くなります。

そうは言っても、子供の頃の龍馬は、わたしの前でよくワァーワァーと泣きましたけどね（笑）。

☆坂本乙女さんの印象

わたしは乙女さんと龍馬さんは、どこか雰囲気似ているなあ～と感じていました。お二人とも、壁がないと言うか、あったかい感じがする方です。

乙女さんはわたしに、自分も龍馬のように冒険がしたかったと、海女の格好になり、泳いで渡るそぶりまで見せてくれました。

そんなやりとりをしていたら、横から龍馬さんが、

「泳がんでも、船で行ったらいい。（笑）」

とツッコミが入り、3人で顔を見合わせて大笑いしました。

ただいま目標に向かって奮闘中のあなたに朗報です。

乙女さんはチャレンジしている女性を応援してくださるそうですよ。

乙女さんにドーンと背中を押して欲しい女性は、坂本家墓所を訪ねてみてはいかがでしょうか。



平井収二郎先生誕生地

平井収二郎先生誕生地
平井収二郎先生は、昭和11年（1936年）4月10日、ここに誕生されました。先生は、幼少より学問に秀で、東京大学で博士号を取得されました。先生は、戦後、教育界に身を投じ、多くの若者に指導をされました。先生は、昭和50年（1975年）に逝去されました。先生は、教育界に多大の貢献をされました。ここに、先生誕生の地を記念して、この石碑を建てました。

870

坂本家墓所から歩いて数分、車だとすぐの近い距離に、平井収二郎（ひらいしゅうじろう）誕生の地・平井加尾（ひらいかお）誕生の地があります。

わたしがこちらを訪れるのは2回目です。

前回はなかなか見つからず、山本さんが途中で運転手さん仲間に尋ねてくださり、なんとかたどり着くことができました。

さきほどの画像を見ると、電車が走っているでしょう？

ここはJRの踏切、すぐ手前の場所です。

線路のすぐ脇の、小高い土地、民家に隣接したところに石碑が立っています。（画像33）

案内板も設置されています。（画像34）

わたしは住人の方にご迷惑をおかけしないよう、こちらの滞在はほんの数分だけとしました。

わたしは平井収二郎・平井加尾誕生の地で、平井加尾さんからチャネリング・メッセージを受け取りました。



【画像 3 3 平井収二郎先生誕生の地】

平井収二郎

幕末の志士。号を隈山わいさんといい、天保六年（一八三五）この地で生まれた。早くより文武を志し、英邁閣達で戦国策士の風があったという。

文久元年（一八六一）に武市瑞山の土佐勤王党に加盟する。翌年、藩主山内豊範に従って上洛し他藩応接役として活躍したが、その後山内容堂が赦免されて藩政を掌握することに先手を打ち藩政改革を企てた。このことが容堂の怒りにふれ、同志の間崎滄浪、広瀬健太とともに切腹を命じられた。

獄中での爪書きの辞世「嗚呼悲しき哉」は藩吏に削りとられたが、維新後、妹の加尾によって復刻された。享年二九歳。墓は石手、丹中山の東麓にある。

平成十二年六月 高知市教育委員会

案内板の奥で、白い花が風に揺れています。

すると、右手に風呂敷包みを抱えた、着物姿のかわいらしい女性が現れました。前回と同様に、平井加尾さんがわたしを迎えてくれました。

加尾さん

「龍馬さんのことなら、土佐にいたころのお話はできますけど。土佐を離れてからのことは、わたしはよく知りません。」

「わたしは龍馬さんが笑った顔が一番好きです。」

うんうん。と頷くわたしの方を見て、

「ねっ？」

と加尾さんは微笑みました。

「龍馬さんは笑うと、目が細くなって、とても優しい顔になるんです。実際に優しいお方でしたよ。

とても大切なお方でした。」

☆平井加尾さんの印象

こちらで加尾さんにお会いすると、彼女の切ない気持ちが伝わってきます。

短い滞在時間ではありましたが、一見すると控えめで、言葉少なく、育ちのいいお嬢さんという印象を受けました。

気になったのは、加尾さんは二度とも風呂敷包みをしっかりと抱えていたことです。

お尋ねすると、それは、言葉では表さない龍馬さんへの気持ちを大切に包んで抱えている、加尾さんの秘めた思いを象徴していました。

平井収二郎・平井加尾誕生の地から、車で15分から20分ほど北へ移動します。
次の訪問先は柴巻（しばまき）にある、田中良助（たなかりょうすけ）旧邸資料館
・八畳岩（はちじょういわ）です。
まずは八畳岩へ向かいます。

田中良助邸の標識が左手に見えたら、さらに裏山の方へと進みましょう。（画像35）

すると途中の道路沿いに案内板が立っています。（画像36）

八畳岩を示す標識はそこからすぐです。（画像37）

前回訪ねたときは、残念ながら雨が降っていました。

わたしは諦めきれずに傘をさし、山本さんに心配されながら、「足元注意」の標識を横目に岩をよじ登りました。

よい子はマネしないでくださいね（笑）。

そして、天気がよい日でも、帰りの下り道は気をつけてください。

岩がとても滑りやすいです。



【画像 3 5】



【画像 3 6 坂本龍馬と田中良助の柴巻】



【画像37】

さあ、今回は見事に晴れました！

わたしは意気揚々と八畳岩を目指します。

山本さんも笑顔で「行ってらっしゃ〜い♪」。

到着しました。（画像38）

おそらく八畳岩を観光で訪れる方は少ないでしょうね。

車がないとなかなか出かけられない場所ですし、裏山の道は距離はさほどでもないのですが、実際に歩いてみると険しい道だと思います。

それでもここは、あっきーオススメの場所なんですよ♪

心地よい風が吹いています。

わたしが八畳岩に立ち、眼下に広がる高知市街地、さらには太平洋を眺めていたときです。（画像39）



【画像 3 8】



【画像 3 9 高知市街地】

「さすがにあんな雨の日は、わしでもここには来ない。」

振り返ると、笑いながら話しかけてきたのは坂本龍馬さんでした。

わたしも龍馬さんのように、直接、岩の上に座ってみました。

故郷である土佐を愛する龍馬さんにとって、ここはピッタリな場所だと感じました。

龍馬さんは八畳岩で、握ってもらったおにぎりを食べたり、昼寝したりと、一人でのんびりと過ごしていたそうです。

いろいろ考え事もしたのかなあ～。

ここは龍馬さんのちょっとした隠れ家みたいで、楽しいポイントでした。

それでは、来た道に戻りましょう。

さきほど通り過ぎた、田中良助旧邸へ向かいます。（画像40）



【画像 4 0 田中良助旧邸】



龍馬青春の地・栄巻



高知市田中良助旧邸資料館

敷地内の見取り図



開館あんない

開館日 金曜日・土曜日・日曜日

※ただし、年末・年始(12/29～1/3)は休館です。
また、敷内整備のためには臨時に休館することがあります。

開館時間 午前10時から午後5時まで

入館料 無料

問い合わせ 観光課 電話 0970-92-9200、
生涯学習課 電話 0970-92-9200、
4-0600-0000

留意事項 館内は禁煙です。
展示品に手を触れないでください。
管理人の指示に従ってください。

高知市教育委員会

入口には案内板が立っています。

こちらは修復工事が行われ、現在は資料館になっています。

当時の屋敷は、現在の建物の西の畑にあったそうです。

ちなみに、平日の月曜日から木曜日は休館ですから、ご注意ください。

二日目の午前中は、龍馬さんゆかりの地をたくさん訪ねることができました。
わたしの訪問先リストから、山本さんが上手にコースを決めてくださったおかげです

。これから尋ねる予定の方の参考になれば幸いです。

さすがにお腹が減りました（笑）。

それでは、お楽しみのランチへ出かけましょう♪

おすすめは「ひろめ市場」です。（画像4 1）

高知の名物をあれもこれも食べたい方はぜひ行ってみてください。

ひろめ市場は、まるで大きな屋台村のようです。（画像4 2）

地元の方もいらっしゃるので、とても活気があります。

週末は席を確保するのに困るほどの人気スポットです。

わたしが出かけたのは日曜日でした。

ひろめ市場の前の通りに、たくさんの露店が並ぶ「土佐の日曜日」が催されています。（画像4 3）

こちらものぞいてみると楽しいですよ♪

【画像4 1 ひろめ市場】



【画像 4 2】



【画像 4 3 土佐の日曜市】



「昨晚も食べたのに、もう食べたい！」

わたしは鰹の塩タタキを求めて、まずは「明神丸」さんへ。（画像44）

こちらでは焼きたての、わら焼きタタキがいただけます。

すごい人気で、行列ができてました。

ポォー！

勢いよく燃えています。

それから、うつぼの天ぷらも買いました。

昼間から冷たいビールで乾杯～♪、といきたいところですが、まだゆかりの地めぐりは途中でしたね。

ノンアルコールビールと塩たたき、うつぼの天ぷらで、乾杯～♪

もう一つはずせない名物があります。

「ひろめで安兵衛」さんの屋台餃子です。（画像45）

外はパリパリで中はジューシーな餃子はオススメです。

さあ、高知名物を楽しんだ後は、上機嫌で次の目的地へと移動です。



【画像 4 4 明神丸】







【画像 4 5 ひろめで安兵衛】



昼食後は、山内神社（やまうち）へ参拝に出かけました。（画像46）

こちらは前回に引き続き、二度目の参拝です。

境内には鏡川（かがみがわ）を背に、15代藩主、山内容堂（豊信）（やまうちようどう・とよしげ）さんの銅像があります。（画像47）

わたしは山内容堂さんに会いにきました。

ちなみに、容堂さんの墓は、東京都品川区東大井、大井公園の南にあります。

以前の作品で（※）、わたしが墓前で受け取った容堂さんからのチャネリング・メッセージをご紹介します。

よかったら、そちらも読んでみてくださいね。

※【あっきーと行く坂本龍馬～ゆかりの地からのメッセージ～

<http://p.booklog.jp/book/5676>

「山内容堂との出会い」



【画像 4 6 山内神社】



【画像 4 7 大政奉還を慶ぶ山内容堂公】

まずは社殿へ向かいます。（画像48）

参拝後、本殿の奥には、たくさんの輝く白い光りが見えました。

その光りの中から、ゆっくりと前へ近づいて来た方が山内容堂さんです。

わたしは容堂さんと向かい合うように立っています。

容堂さんは笑顔でゆっくりと頷きながら、右手をわたしの方へ差し出すと、

「よく来たな。一杯どうだ？」

おっと、今回もまずは祝杯からでしょうか？（笑）

はい、喜んでいただきます♪

わたしは山内神社で山内容堂さんから、チャネリング・メッセージを受け取りました

。



【画像 4 8 山内神社社殿】

見なさい。

土佐は美しい。

本来、人々の心も美しいのだ。

我々藩主は神となり、土佐の人々の幸せを願い、こうしていつも見守っている。

この地で誕生する一人一人が愛おしく、大切な存在である。

メッセージの後で、イメージが送られてきました。

それは、初宮参りで山内神社を訪れた、かわいらしい赤ちゃんの映像でした。

この地で誕生された子供たちは、ご加護を受けているそうですよ。

高知在住でお子さんを授かった方は、初宮参りに山内神社へお出かけになってみてはいかがでしょうか？

帰りに社務所へ寄り、おみくじを引きました。

ヤッター！

今回も大吉でした♪



第九十九番 大吉



紅日当門照
こうじつもんにあたつてとらふ

暗月再重圓
あんげつまたたびちようえんたりの

遇珍須得
ちにおうてまべからくたか

再
ふるころにかな

おみくじ

お神籤
百円

日根野道場跡（ひねのどうじょう）は、鏡川沿いの旧築屋敷（きゅうつきやしき）にあったそうです。（画像49）

付近には「高知城下町名今昔」と題した案内板が立っています。

この旧築屋敷の説明文には、日根野道場跡についても書いてあります。（画像50）

ここは、前の章でご紹介しました坂本龍馬生誕の地からも近いです。

前回は土砂降りで、写真も撮れないほどだったので、泣く泣く車で通過しました。

今回はお天気に恵まれたので、車を降りて、一人でゆっくりと散策してみました。

現在、この付近は閑静な住宅街になっています。

わたしが訪ねた頃は、犬の散歩をしている方とすれ違うくらいでした。



【画像 4 9 旧築屋敷】

【画像50 高知城下町名今昔 旧築屋敷】

通りの向こうから、子供たちが元気よく走ってくるのが見えます。
大きな風呂敷を持った、和服姿の少年たちです。
一人の少年がわたしに話しかけてきました。
すぐに少年時代の龍馬さんだとわかりました。

龍馬少年

「土佐はどうだった？ もうすぐ帰るんでしょ？」

あっきー

「もちろん、とてもいいところですよね。」

龍馬少年

「もう、腹が減って、腹が減って。」

どうやら稽古帰りのようです。

龍馬少年

「でもね、すぐには食べさせてもらえないんだよ。

父上に『道場に稽古に行って参りました。』って必ずお伝えする決まりがあるんだ。

『よし、わかった。』って言われたら、もう、まっしぐらだけどね！」

龍馬少年が言うには、道場帰りにお父さまのところへ挨拶に行くと、とても満足げな表情をされるそうです。

その頃の龍馬少年にとって、道場へ通う目的などはわかっていませんでした。

ただ、道場通いは父親を喜ばせることなのだと感じていたので、一生懸命に励んでいたそうです。

【参考文献（Web ページ）】

※2011/11/12 アクセス

「高知市公式ホームページ」

<<http://www.city.kochi.kochi.jp/>>

「高知市観光協会」

<<http://www.welcome-kochi.jp/>>

「楽天トラベル たびノート」

<<http://kanko.travel.rakuten.co.jp/>>

「高知県立坂本龍馬記念館」

<<http://www.ryoma-kinenkan.jp/>>

「山内神社」

<<http://www8.ocn.ne.jp/~y-jinjya/>>

☆～ 協力 ～☆

【取材協力】山本タクシー

TEL 090-1000-4036





☆～ 表紙イラスト・本文イラスト ～☆

美紀羽

スピリチュアル・アート

東京都在住。

幼い頃から見えない世界の住人たちと遊びながら描いていたが、その絵に彼らのエネルギーが宿ることを発見。

イラストレーターとして、妖精や精霊、龍たちのエネルギーを届けることに。

<<http://www.mi-gi-wa.com/>>

☆～ 表紙デザイン・マップ製作 ～☆

ナカムラ ナオコ

☆～ プロフィール撮影 ～☆

ガイアの光り

スピリチュアルフォトグラファー

<<http://www.gaia-mizuha.com/gaia/index.html>>

☆～ 構成・本文撮影 ～☆

あつきー

☆～ Special thanks ～☆

坂本龍馬

坂本乙女

坂本幸

坂本直足（八平）

坂本直方（権平）

坂本家の祖先

武市瑞山（半平太）

武市富子

近藤長次郎

後藤象二郎

平井加尾

平井収二郎

山内容堂（豊信）

田中良助

c e r e n a

ガイアの光り

m y f a m i l y

☆～ プロフィール ～☆



著者 あつきー

出身地 長崎県諫早市小川町

職業 眼科院長（東京都渋谷区）
スピリチュアリスト

H P <http://salondeakinews.edoblog.net/>

2011年11月16日 初版発行

【ご注意ください】

ご紹介したメッセージは、あくまでもわたしが個人的にチャネリングした結果で、歴史上の話とは異なる可能性があります。

この件に関する一切のクレームは受け付けませんので、ご理解のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。



【マウントシャスタ】 2011年8月撮影